

活動レポート

倫理委員会

文責：倫理研究会幹事 佐々木裕之

平成 26 年度第 6 回、平成 27 年度第 1 回研究 WG 活動報告

はじめに

倫理委員会では、平成 27 年 2 月 9 日(月)に平成 26 年度第 6 回研究 WG(出席者 19 名)を(株)ドーコン会議室にて、平成 27 年 4 月 13 日(月)に平成 27 年度第 1 回研究 WG(出席者 20 名)を(株)中大実業会議室において開催いたしましたので、これらについて報告いたします。

1. 平成 26 年度第 6 回研究 WG

(1) 第 6 回技術者倫理フォーラムについて

基調講演については、技術者倫理に拘らず医療・生命倫理に関する講演を希望する意見があり、この意見をもとに講演候補者を検討することとしました。

また、これまでは事例研究は 2 編の発表でありましたが、事例研究 1 編、旭川高専での共同授業報告 1 編の計 2 編の発表を行うこととしました。

(2) 旭川高専共同授業(第 2、3 班)について

旭川高専で技術者倫理の第 2 回目の授業を平成 26 年 12 月 22 日(月)に、第 3 回目の授業を平成 27 年 1 月 19 日(月)実施してきました。



12/22 の授業で学生が作成したマインドマップ

講義テーマは第 2 班が「技術者とリスク」、第 3 班が「組織内技術者の悩み」として、学生とのディスカッション事例に第 2 班は「福島第一原発事故と原

発の是非」、第 3 班は「セブンステップガイドによる適切な決定に関する事例研究」としました。



1 月 19 日に実施した旭川高専での授業

各班の授業実施の感想としては、講義中は講師の話をおとなしく聞き、ディスカッションとなると意見を活発に交えるなど、まじめな学生が多く、とりまとめ方が上手な点が印象的であり、また来年も共同授業をやりたいとの意見が多く出ました。

(3) 事例研究 3 ケーススタディ 3(環境ホルモン)』

総括(担当：長谷川委員・中野委員)

前々回 WG での議論に基づき、長谷川委員より本事例の最終的なとりまとめ結果の説明がありました。

議論では以下のような意見が出されました。

- ・マクロ、メゾ、ミクロというようにレベル(階層)を分けた説明をされたが、応用倫理というのはこういう考え方だということが理解できた。
- ・生命倫理や情報倫理の定義(論考の範囲)をはっきりとさせた方が良いと感じた。

(4) 事例研究 4『ケーススタディ 4(不都合な事実)』

総括(担当：篠原委員・山本委員)

前回 WG での議論に基づき、篠原・山本委員より事例に関する最終説明があり、これについて議論を

行い、以下のような意見が委員から出されました。

- ・トレードオフ、リスクアセスメント、セブンステップガイド、それぞれの観点での特徴・差異等はまとめていないのだろうか？
- ・何も行動を起こさないことが“誠実な対応”とされているのに違和感がある。

(5) 事例研究 5『ケーススタディ 5(社長の横やり)』

解説(担当：立花委員・川浦委員)

立花・川浦委員よりケーススタディ 5 の事例に関する概要説明があり、これについて議論を行い、以下のような意見が委員から出されました。

- ・具体的な結論としては、フローに示したとおりで、リスクの許容度合いで今回は 3 例の行動案が考えられた。リスクの評価・検討をしたので、1 つの行動案を絞っているわけではない。
- ・事例の中で柴犬工業の社長が桃太郎電子の社長の実弟だとされているが、この要因は大きく影響せず、人命を扱う製品である以上、安全性、安定性ということを最優先に考えるのが一般的な会社・経営者なのではないかと思う。
- ・社長に怒られないようにというのが事例の条件であるが、社長を説得するという考え方は選択肢としてない訳ではないと思う。技術者の視点、技術論だけの判断で検討を行った。

2. 平成 27 年度第 1 回研究 WG

(1) 第 6 回技術者倫理フォーラムについて

基調講演は「安楽死と倫理～プロセスとしての終末期医療～」と題して、札幌医科大学の船木講師に決定しました。また、事例研究発表は「リスクアセスメントの技術者倫理～社長の横やりによる技術者の悩み～」と題して、立花委員と川浦委員が発表を行います。なお、旭川高専との共同授業報告は今井幹事が発表を行うこととなりました。

(2) 事例研究 2『ケーススタディ 5(社長の横やり)』

総括(担当：立花委員・川浦委員)

立花・川浦委員より、第 6 回技術者倫理フォーラムでの発表の予行演習を兼ねて、ケーススタディ 5 の事例に関する説明があり、これについて議論を行い、以下のような意見が委員から出されました。

- ・発表内容が比較的高度であり、フォーラムで初めて聞く人には、理解するのが難しいように感じた。
- ・線引き問題と相反問題について説明があり、リスクアセスメントの説明がある。何を主張したかったのか、論点が判りにくく感じる。
- ・この事例は「社長の横やり」だけではなく「経営的なリスク判断」をテーマにまとめられている。経営安定性を考慮した継続的な透析の実施を重視することがリスクマネジメントにつながるといったことをテーマにしていると感じた。
- ・曖昧な点についていろいろなケースを想定し、それらにリスクアセスメントを行うことが結論ではないだろうか。したがって、リスクアセスメントの説明に工夫が必要ではないだろうか。
- ・組織をどのように維持・運営していくか、会社をどのように経営するかといったことは、開発チームが判断することではない。経営者は取引先の与信を行っているが、技術者がそのようなところまで判断するのであろうか。
- ・与信に問題がある企業と取引を検討している時点で部長に問題がある。技術者も技術者としての責務は当然のこと、経営的判断も考慮した意思決定をしなければならないと考える。
- ・前提条件が曖昧だと、線引きや相反など従来手法での落としどころや選択肢が無数に増えてしまう点について説明し、製造物責任といった視点からリスクアセスメントを用いた考察を行うといった点を強調して説明した方が良い など



第 1 回研究 WG 会議状況